

大阪経済記者クラブ、青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ会員各位

大阪商工会議所
南海電気鉄道株式会社

万博、I R、なにわ筋線を見据えて、難波エリアを国際的な観光都市に
“エンタメ”と“ステイ”の力で都市格を高めるビジョン
～万博開催時のまちなかフェスティバル、なにわ筋線新駅周辺での拠点形成等を提案～

【お問合せ】大阪商工会議所 地域振興部(田中、西田)
TEL:06-6944-6323

大阪商工会議所 都市活性化委員会(委員長: 銭高一善・(株)銭高組取締役会長)と、南海電気鉄道(株)(社長: 遠北光彦)は、「**難波エリアの都市格を公民協働で高めるまちづくり懇談会**(以下、懇談会)」を設置し、2025年大阪・関西万博の開催、2029年のI R開業、2031年のなにわ筋線の開業を見据えて難波の未来を描く「**難波エリアの都市格を“エンタメ”と“ステイ”の力で高めるまちづくりビジョン**」を取りまとめた。

なんば駅前広場や道頓堀とんぼりリバーウォーク、商店街など**まちなか全体での万博開催時におけるフェスティバル開催、なにわ筋線の新駅周辺における拠点形成、エリアマネジメント活動**を通じた交流促進、新たな発想への挑戦等を提案している。

【国際的な観光都市として成長する難波エリアの未来イメージ】



本パースは、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

- 懇談会は2021年7月に設置。大阪公立大学の橋爪紳也特別教授を座長に、難波エリアの商店街、町会、企業等でまちづくりの目標を議論し、本ビジョンを取りまとめた。
- 難波エリアは、コロナ禍による海外インバウンドの消失で甚大な影響を受けたが、今後は万博開催、I R開業、なにわ筋線開通で、来街者の増加が見込まれている。
- 本ビジョンでは、エリア特性を踏まえ、**特別感(ハレ)を楽しむ“エンタメのちから”**と、**日常感(ケ)を支える“ステイのちから”**という2つの柱を設定した。
- “エンタメのちから”では、“**食いだおれ**”“**文化芸術**”“**賑わい**”が融合する「**難波チャーフェス(仮称)※**」を万博時に開催することを提案。“ステイのちから”では、**なにわ筋線の新駅周辺にビジネス機能や外国人の滞在・居住機能を強化する拠点の形成**を目指す。また、エリアマネジメント活動を通じた交流促進、新たな発想への挑戦の後押し等も盛り込んでいる。

※チャーフェス: 難波の個性あるカルチャー・新たな挑戦を受け入れるベンチャー・わくわくするアドベンチャーな難波のまちの未来のフューチャーを描いていきたい思いから命名

以上

<添付資料> 難波エリアの都市格を“エンタメ”と“ステイ”の力で高めるまちづくりビジョン



難波エリアの都市格を “エンタメ”と“ステイ”の力で 高めるまちづくりビジョン

2022年4月

難波エリアの都市格を公民協働で高めるまちづくり懇談会

1. 難波の成長チャンスにつなげるビジョン

難波の“楽しみ”の原点とエリア個性

難波エリアの“楽しみ”の原点は芝居文化(道頓堀五座)・おもてなし界限(商店街)といった“ハレ(非日常)とケ(日常)の場”の中にあり、それらがエリアの個性へとつながっている。

その個性を活かした“廻る楽しみ”・“食べる楽しみ”・“出会う楽しみ”がこのまちの価値となっている。

難波エリアが向き合う厳しい状況

一方、新型コロナウイルス感染症の甚大な影響により、海外インバウンドの消失を一つの起因としてまちの活力が大きく低下する厳しい状況下が続く中であるが、今一度、これまでのまちの現状の課題を振り返りながら、活力ある元気な難波のまちづくりのビジョンを見出していく時である。

難波エリアの元気な未来を描くビジョン

“機会・時間・空間・人・体験”を未来志向で捉えながら、大阪都心の中の難波エリアに期待されるエリア特性を整理し、2025年大阪・関西万博、2029年IR開業、2031年なにわ筋線開業といった関西経済が大きく動き出す流れを読み解き、難波エリアの成長チャンスにつなげるビジョンを描く。



2. 難波を取り巻く未来社会の動向

今後約10年間の間で大きく動く関西経済の動向を捉まえながら、難波の成長の機会・懸念に柔軟に対応したまちづくりを展開していくことが肝要。

機会

- 2025年万博開催・2029年IR開業による来阪者・難波来街者の増加が見込まれる
- 2031年なにわ筋線開業による難波の乗降客数の増加が見込まれる

大阪・関西万博やIRにより、国内外からの多くの観光客が見込まれ、大阪の象徴的な場所である難波にも多くの人を訪れることが想定される。

なにわ筋線開業により、京都への直通アクセス等、新たな関西観光ルートが生まれ、また国土軸(メガリージョン)に接続するため、難波の乗降客の増加が見込まれる。



懸念

- コロナの長期化によってインバウンド・エリア人流の回復等への不確実性が高まる
- なにわ筋線開業で難波が通過される懸念
- 梅田・京都等、エリア周辺他地域の台頭

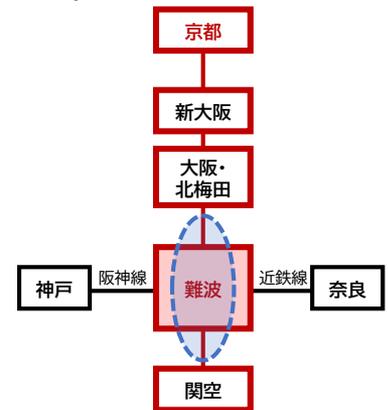
インバウンド効果により、2000年頃以前に続いていた難波における経済状況の低下から持ち直すことはできたが、再びコロナの影響によって経済が低迷している状況にある。なにわ筋線開業により乗降客の増加が見込まれる一方、関空と他の主要エリアが直結するため、乗り換え客が減少し、難波が通過駅となることが懸念される。



出所: 戎橋筋商店街より受領

資料左: 戎橋筋商店街の来街者数

資料右: なにわ筋線開通により、北方面への乗換客が難波で降りずに通過する懸念



3. 懇談会の検討体制

2022年3月時点

難波のまちづくりに係わる多様な方々、まちづくりの専門家、行政、有識者からなる懇談会を組成しビジョンを検討。

コア委員
<有識者> ・橋爪紳也 氏 大阪府立大学特別教授<座長> ・武田重昭 氏 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授<副座長>
<商店街・エリアマネジメント分野> ・千田忠司 氏 大阪市商店会総連盟理事長 ・栗原智一 氏 ミナミまち育てネットワーク街づくり委員会委員長 ・中塚 一 氏 ミナミ御堂筋の会事務局長
<町会等> ・菊地正紀 氏 精華連合振興町会会長 ・位上謙二 氏 難波元町連合振興町会会長 ・高橋真由美 氏 なにわ小町代表
<文化・観光・外国分野> ・吉川 徹 氏 吉本興業ホールディングス(株)企画部長 ・田中好明 氏 (株)JTB執行役員・道頓堀ナイトカルチャー創造協議会 ・王 沁柔 氏 台湾観光協会大阪事務所シニアマーケティングマネージャー
<大規模商業分野> ・高山俊三 氏 (株)高島屋常務取締役関西代表大阪店長 ・戸田篤樹 氏 (株)丸井なんばマルイ店長 ・町野和道 氏 大阪地下街(株)代表取締役社長
<暮らしと生活分野> ・高宮紀子 氏 関西電力(株)ソリューション本部開発部門専任部長 ・田中雅人 氏 大阪ガス(株)大阪・奈良・和歌山地区統括支配人 ・柳澤英夫 氏 (株)良品計画無印良品難波館長
<鉄道まちづくり分野> ・松下 晃 氏 大阪市高速電気軌道(株)執行役員都市開発事業本部第2開発事業部長 ・清原康仁 氏 南海電気鉄道(株)上席執行役員まち共創本部副本部長 ・中北 真 氏 近鉄グループホールディングス(株)執行役員
<経済団体> ・中野亮一 氏 大阪商工会議所 理事 中小企業振興部長

- <事務局>
- ・大阪商工会議所地域振興部
 - ・南海電気鉄道(株)まち共創本部

ゲスト委員
<テーマ1:難波の文化・エンタメ・着地型観光・食文化> ・井原正博 氏 ミナミまち育てネットワーク企画委員会副委員長 ・森なおみ 氏 (株)インプリージョン ツーリズム事業プロデューサー ・今井 徹 氏 道頓堀今井 (株)今井代表取締役
<テーマ2:ダイバーシティ・多様な働き方環境・エコシステム> ・権 基哲 氏 CON代表 ・島原万丈 氏 (株)LIFULL LIFULL HOME' S総研所長 ・金谷元気 氏 akippa(株)代表取締役社長CEO
<テーマ3:人中心のまちなかを支えるパブリックスペース・まち環境の適正化> ・吉谷鉄三 氏 水都大阪コンソーシアム統括ディレクター ・山崎聖高 氏 大阪・光のまちづくり推進委員会事務局長 ・小松靖朋 氏 大阪市建設局企画部道路空間再編担当課長
<テーマ4:メガリージョンへの接続と鉄道まちづくり・MaaS> ・谷 貴文 氏 西日本旅客鉄道(株)創造本部えき・まち創造グループ部長 ・松本利典 氏 阪急阪神不動産(株)取締役開発事業本部 副本部長 ・角田陽介 氏 国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官 ・牧村和彦 氏 (一財)計量計画研究所理事研究本部企画戦略部長
<テーマ5:安全安心・ソーシャルキャピタル> ・牧 紀男 氏 京都大学防災研究所教授 ・梅田りさ 氏 (株)街プロダクション 代表取締役 ・門重 学 氏 ミナミまち育てネットワーク街づくり委員会副委員長

オブザーバー
<都市再生・まちづくり部門> ・上溝憲郎 氏 大阪市計画調整局開発調整部長 ・進士 肇 氏 大阪都市計画局副理事 ・松川晃久 氏 (独)UR都市機構西日本支社都市再生業務部長 ・安尾和弘 氏 (株)湊町開発センター常務取締役総務部長
<観光振興部門> ・花澤隆博 氏 大阪市経済戦略局観光部長 ・芳田 隆 氏 大阪観光局常務理事
・岩崎恵久 氏 大阪市中央区副区長 ・世古口隆志 氏 大阪市浪速区副区長

4. 難波エリアの都市格を高めるビジョンの柱となる2つのちから

エリア特性を踏まえた議論から、難波エリアではハレ(非日常)を支える“エンタメ”とケ(日常)を支える”ステイ“の2つのちからで、難波のまちの都市格を高めることを目指していく。

難波の文化芸能と界隈性を織りなす「(非日常の)特別な期待感(ハレ)」を楽しむ“エンターテインメントの力”を高めることで、難波の都市格を高める。

難波への愛に溢れ、また、これから好きになってくれる人々に選ばれ、暮らし、働きたくなる「日常の期待感(ケ)」を支える“ステイの力”を高めることで 難波の都市格を高める。

難波の「特別な期待感(ハレ)」を楽しむ “エンタメのちから”を 高めるまちづくりビジョン

- ※ エンターテインメント: 広義の意味で、楽しい・わくわくする魅力体験・リアル体験・商店街空間・アートやサブカルチャー・商店街の界隈性・飲食・イベント企画・人との近さ
- ※ これからの難波エンタメのシンボルとなるハイクオリティな文化・観光・新しい分野サービスを含め、難波エリア全体の来街動機を高める取り組み

難波の「日常の期待感(ケ)」を支える “ステイのちから”を 高めるまちづくりビジョン

- ※ ステイ: 広義の意味で、居心地良く滞在できるまちなか空間・ショッピングできる環境・チャレンジ精神に富んで働ける環境・選択のバリエーションがある住む環境
- ※ 新しいライフスタイルを難波で実現できる取り組みや、万博・IRを見据え多くの外国人の方々への滞在も惹きつける取り組み

“エンタメのちから”と“ステイのちから”を高めるビジョンを5つのテーマから探索

難波の文化・エンタメ・
着地型観光・食文化



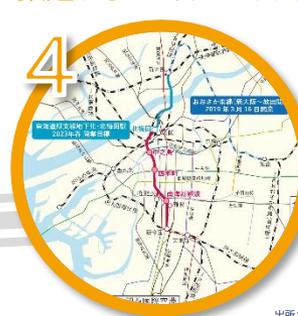
ダイバーシティ・
多様な働き方環境・
エコシステム



人中心のまちなかを支える
パブリックスペース・
まち環境の適正化



メガリージョンへの接続と
鉄道まちづくり・MaaS



安全安心・
ソーシャルキャピタル



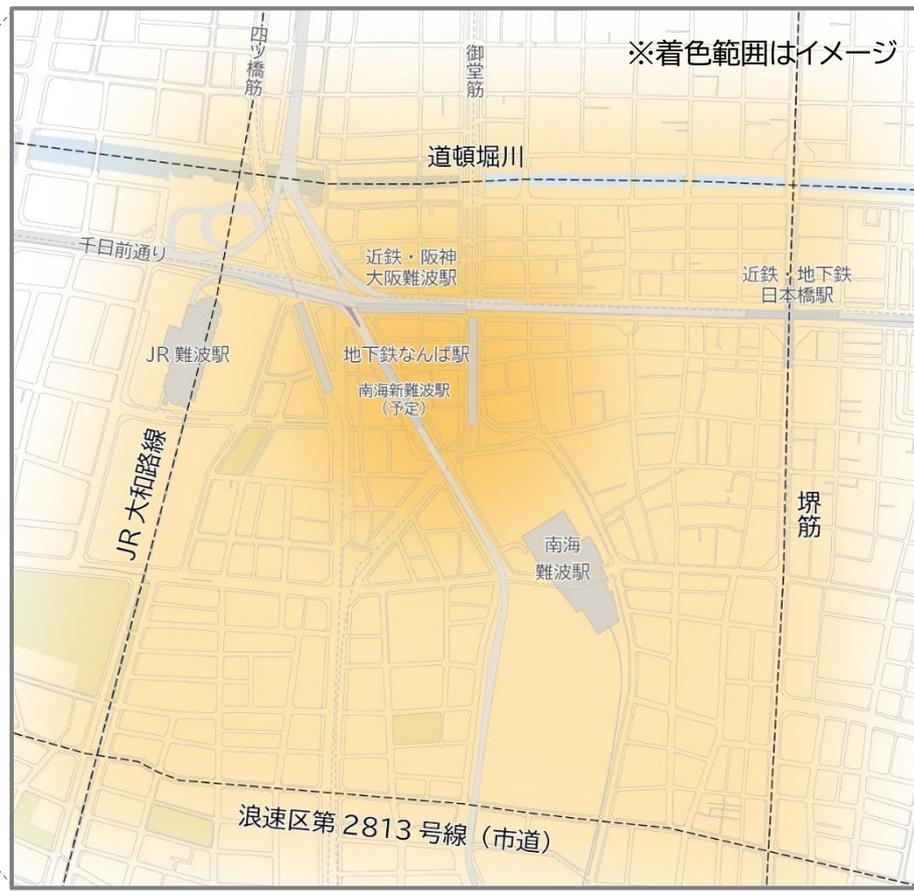
出所: We Workより受領、大阪市資料を加工して作成、南地中筋商店街振興組合HPより

5. 大阪都心の主要エリアとの関係性を踏まえた難波エリア

まちとしての「難波」や「大阪ミナミ」の範囲は様々なとらえ方があるが、本懇談会では、都市インフラや交通インフラ、大街区、商業集積、今後大きなまちづくりが見込まれる一定のゾーンをまとまりとして、「難波エリア」を設定し、“**エンタメのちから**”と“**ステイのちから**”を高める取り組みを進める。



大阪市内の主要なエリア



< 難波エリア範囲 >

東: 堺筋・西: JR大和路線・南: 浪速区第2813号線(市道)・北: 道頓堀よりそれぞれ一街区程度外側

6. 難波エリアが目指す3つの目標と、元気な未来像

“エンタメのちから”と“ステイのちから”の両輪で、2025年大阪・関西万博から2031年なにわ筋線開業、その後の長期的にまちづくりを進めていくため、以下の3つ目標・将来像をまちづくりの実現を目指していく。

1. まち文化賑わいの活力で国内外の注目を集め続ける難波！

- 2025年大阪・関西万博・2029年IRを見据え、大阪を目指して来られる国内海外の人々に難波の「文化芸術カルチャー」、「多様な食の楽しみ」、「盛り場の雰囲気でご過ごす時間」を楽しんでいただけるまち文化賑わいの活力を高める。
- 賑わいある商店街と文化拠点、魅力ある難波ショッピング施設、道頓堀の水辺と御堂筋のなんば広場において、このまちのエネルギーを世界に発信できるエンターテインメントのフラッグシップエリアとして磨きをかける。

2. 拠点機能を高めながらなにわ筋線開業を契機に成長し続ける難波！

- 2031年なにわ筋線開業に向けて、まちの活性化を促す都市再生制度を活用し、安全安心なまちなか形成とともに成長産業や企業・人材を誘致できるエリア再生を目指し、道頓堀・商店街が広がる界隈と共に世界・全国につながる拠点機能を向上させ選ばれる都市に成長する。
- 難波の強みである界隈性を最大限活用し難波を好んで選んでくれる人材と「働く」・「遊ぶ」・「滞在する」タッチポイントをまちなかに増やしながらか課題解決型の挑戦・ビジネスが生まれやすい環境をつくる。

3. 「新たな関係性」「多様なサービス」「次代の担い手」を育み続ける難波！

- 2040年、2050年までの未来も視野に入れ、日進月歩のデジタル技術も賢く活用しながら「人とモノ」・「人とコト」・「人と人」・「人とまち」・「人と社会」の新たな関係性と多様なサービスを創り上げる。
- 多様な価値を認め生み出すエリアマネジメント活動を通して、次代のまちの担い手育成に取り組んでいく。

2025年大阪・関西万博、2029年IR誘致、2031年なにわ筋線開業、そして2050年の未来には、難波エリアが大阪の元気を、関西の元気を、日本の元気を大きく牽引する**国際的な観光都市**に成長する未来を描きたい。



本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

7. 未来像実現のためのアクション“まち文化賑わいプログラム”！

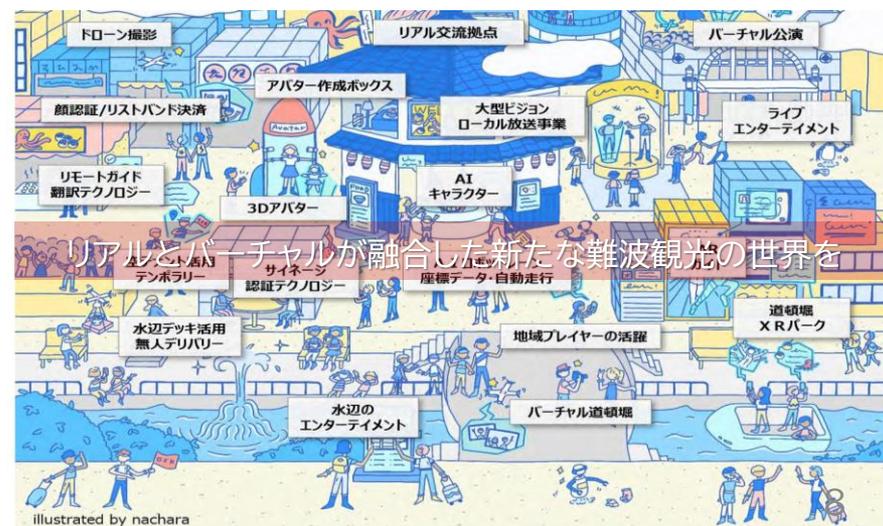
めぐ 廻る楽しみ“難波チャーフェス(仮称)※” をまちなか全体で開催！

- “エンタメのちから”の表現や企画、実証実験を街ぐるみで応援する難波に。文化芸能の伝統と新しくておもしろい発想が表現でき、多様な人が交流できる「劇場的な場所」をまちなかに続々登場させていく。
- そこでは、万博レガシーとIR誘客を見据え、道頓堀、なんば広場や御堂筋といった“まちなか”と、エリアに点在する“ハコ(施設)”が舞台となり、難波が誇る“食いだおれ”、“文化芸術”、“賑わい”のほんまもんが融合する「難波チャーフェス(仮称)※」を2025年万博開催時のスタートを目指す。
- さきがけて2025大阪・関西万博に向けては、リアルでのまちなか環境づくりとともに、バーチャルやメタバースの世界で難波のまちづくりに期待を寄せるプレイヤーとつながることで、未来の難波観光の広がりの可能性を探索し、関西国際空港に直結する大阪ミナミの難波を大阪観光の発信基地に成長させる。

※チャーフェス：難波の個性あるカルチャー・新たな挑戦を受け入れるベンチャー・わくわくするアドベンチャーな難波のまちの未来のフューチャーを描いていきたい思いから命名



提供元：なんば広場改造計画2021



提供元：道頓堀ナイトカルチャー創造協議会

難波チャーフェス(仮称):なんば広場会場想像図



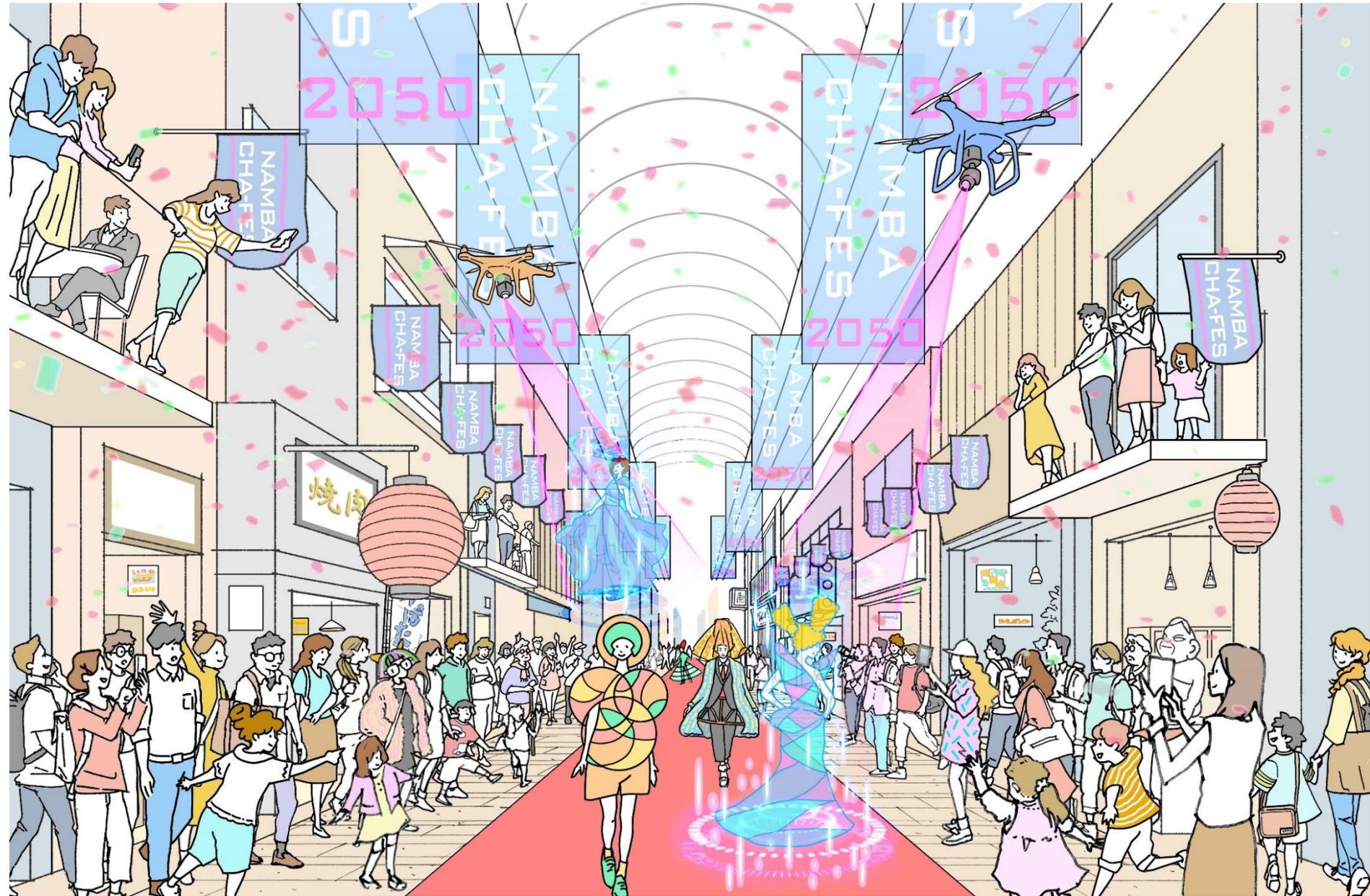
本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々のご同意を経て作成したものではありません。

難波チャーフェス(仮称):道頓堀とんぼりリバーウォーク会場想像図



本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

難波チャーフェス(仮称):まちなか商店街ストリート会場想像図



本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

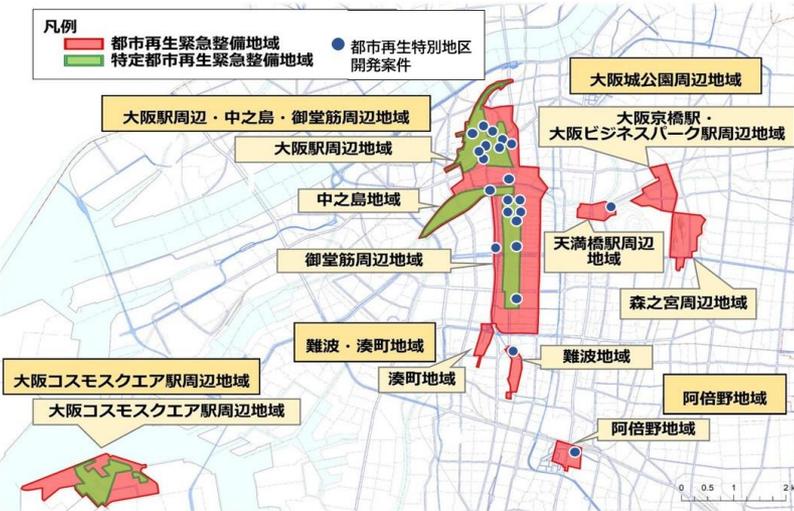
8. 未来像実現のためのアクション“新駅周辺エリアの拠点形成”！

なにわ筋線新駅周辺でインベイティブな “新たな難波の顔づくり”に挑戦！

- なにわ筋線開業を契機に国内外からのアクセス性が向上する難波では、エンタメ産業やSDGsに取り組む多彩な人材が働き活躍するビジネス機能と、アフターコロナを機に来阪が復活する外国人の滞在機能・居住機能を強化することで、関西国際空港直結の立地を活かしたエリア成長を目指す。
- そのための拠点機能をより高めるため、例えば、都市再生制度である難波・湊町都市再生緊急整備地域の拡大も視野に、機能性の高い高度街区利用を促す開発機運を醸成しながら、御堂筋・なんば広場・伝統文化の五座界限との回遊を地上と地下空間とが連続的・立体的に繋げる街区整備を進めながら、足元では盛り場の雰囲気を感じられムードある新駅周辺での新たな難波の顔づくりに挑戦する。
- 新たな拠点形成の中では、ファッション・飲食・暮らし健康・文化芸能の各種分野が体験重視やMaaS導入型の新事業として提供され、ベンチャー・スタートアップ人材のアイデアがPoC(プルーフ・オブ・コンセプト:アイデア段階での検証)で試行が繰り返され、“人”が出会い交流する難波イノベーションの拠点形成を目指す。

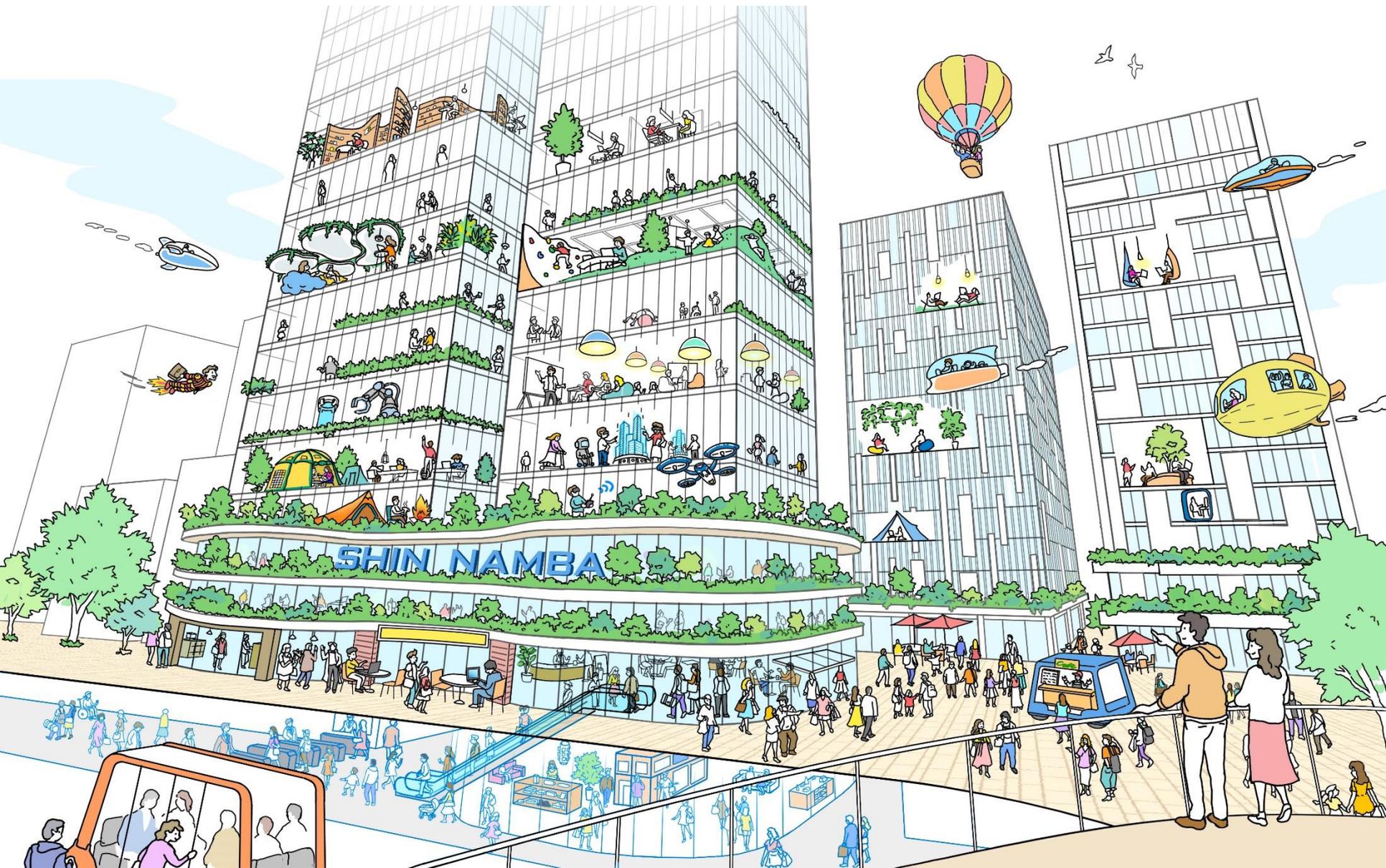


出所：新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会資料



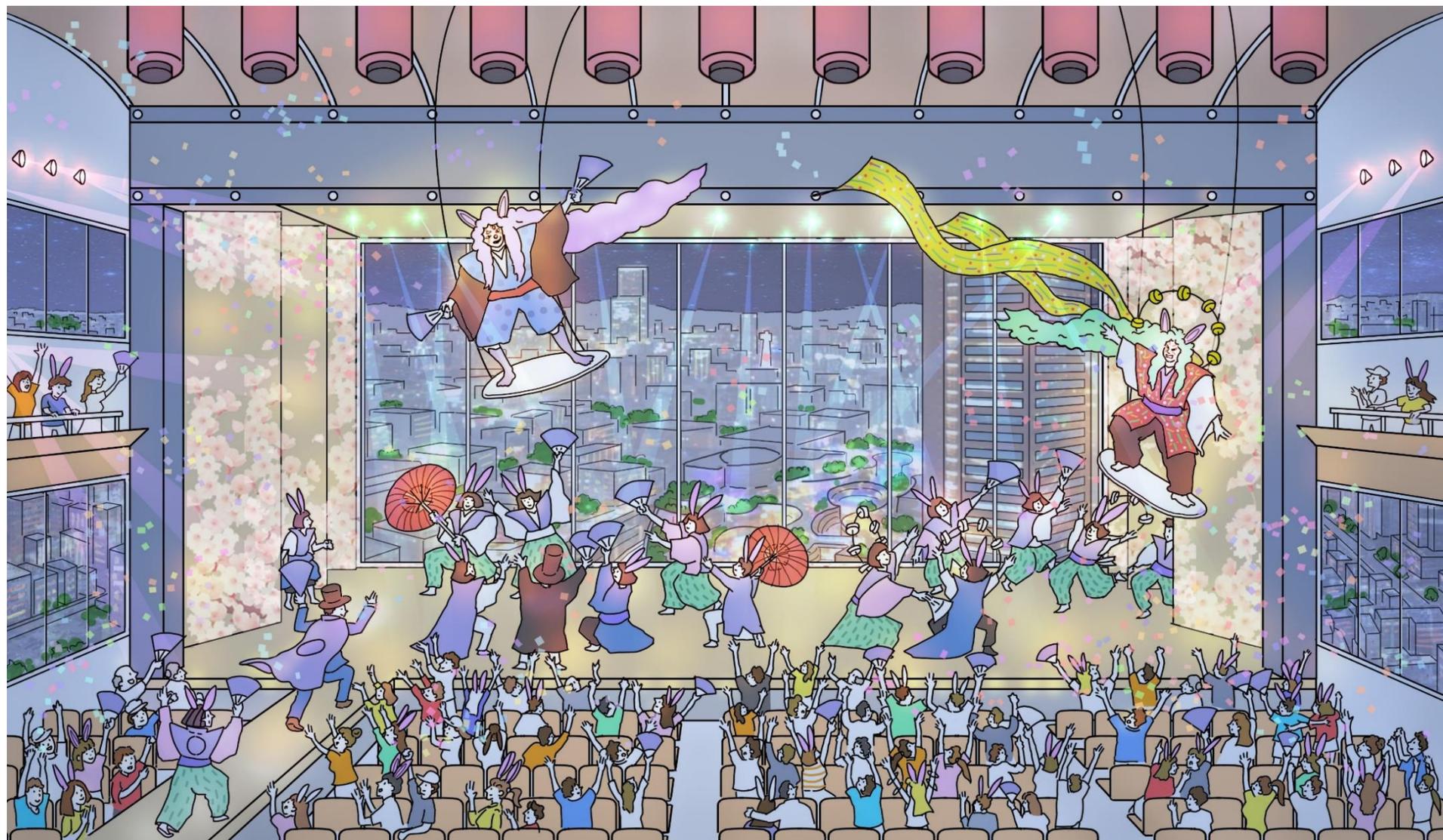
出所：大阪市HP

新たなまちの顔となる新駅周辺拠点形成想像図



本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

新しい文化芸術・アートを表現できる劇場機能想像図



本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

難波のまちを眺めながら特別な時間を過ごせる場所想像図



本パース図はビジョンをイメージしていただくために作成しているものであり、関係機関や地権者の方々の合意を経て作成したものではありません。

9. 未来像実現のためのアクション“人が繋がる難波のまち育て”！

安心できる難波、挑戦を後押ししてくれる難波を次の次代へ！

- 「難波を愛する思い・人とのつながり・このまちを守る気持ち」への共感が、安心して過ごせる時間と場所を来街者に提供してくれ、このまちで挑戦する人材を後押ししてくれるからこそ、難波のまちの財産である人とのつながりソーシャルキャピタル(※)をまち育てで高めていく。
- 次世代の若者や新たに難波で活躍したい人達が、まち活性化・防災治安・コミュニティ形成といったまちの課題に対する意識を持ちやすくできるよう、地域活動の組み立て時には「面白味のある参加しやすいイベント仕立て」にし、将来の担い手として参画しやすいまち育てを進めていく。
- 地域・企業・まちづくり団体・多様な来街者が、難波のまちで交流し繋がることができ、新たな発想の取り組みに挑戦できる場・時間・機会・事業をエリアマネジメント活動を通して実現していく。

※ソーシャルキャピタル:「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会関係資本



473店舗参加中！

大阪のお店の救済プロジェクト



10. ロードマップイメージ

まちづくりビジョンの実現に向け、大阪・関西万博やIR開業、なにわ筋線開業等を契機としながら2050年までを見据えて難波のまちづくりを推進する



おもてなし準備期

おもてなし強化・成長エンジン形成期

飛躍期

成熟期

“まち文化賑わいプログラム”！
“難波チャーフェス(仮称)”スタート

“新駅周辺の拠点形成”！
なにわ筋線新駅周辺で
“新たな難波の顔づくり”

“人が繋がる難波のまち育て”！
安心できる難波、挑戦を後押ししてくれる難波を次の次代へ！

ビジョンの取り扱い

本懇談会では、“エンタメ”と“ステイ”の2つの力を高めることが難波エリアの都市格向上につながるという仮説を立てるとともに、難波エリアで取り組まれている公共事業や民間事業、まちづくり活動、全国のエリア再生のトレンド等を可能な限り事前に研鑽しながら議論を進めてまいりましたが、内外の全ての動向やまちづくりへのご意見を反映するまでには至っておりません。

ビジョンの提案内容は、法制度面、科学技術面、実施主体や資金面からの実現性について精査したものではないものの、コロナウィルス拡大等によりまちの活力の停滞が続く中、まずは、2025大阪・関西万博を目指して明るく元気な難波の将来を描いていきたいという思いを未来への提案として取りまとめたものとなります。

< 参考資料 >

ビジョン検討にあたって、懇談会にてゲスト委員
から示唆されたまちづくりのポイント

<テーマ1ゲスト委員:森なおみ氏提供資料より>

・難波の魅力である「まちの人たち」と難波を訪れる人たちとの関係観光を構築していく。

森なおみが提案する

新しい観光とマーケティング 6P



people:人々や国民という意味 (複数形)
person : 人・人間といった意味 (単数形)

(c)naomi mori

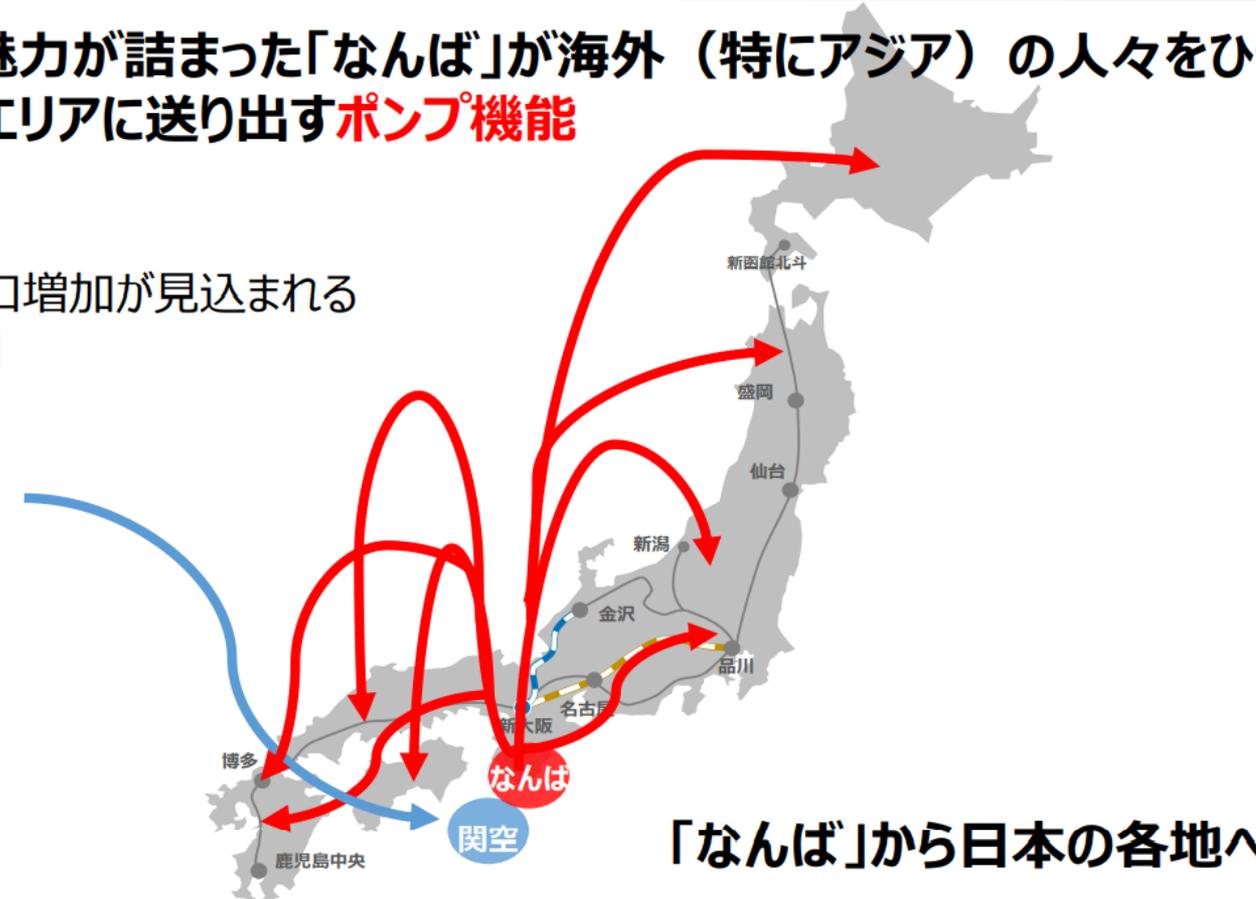
<テーマ4ゲスト委員:谷貴文氏提供資料より>

・世界からのお客さまをもう一度、難波を玄関口に大阪へ、関西へ、全国へと送り出す時が近づいている。

なんばエリアへの期待

個性ある魅力が詰まった「なんば」が海外（特にアジア）の人々をひきつけ、日本の各エリアに送り出す**ポンプ機能**

今後も人口増加が見込まれる
アジア各国



「なんば」から日本の各地へ

<テーマ4ゲスト委員:角田陽介氏提供資料より>

・インバウンドに対しては事前に情報を伝えることが肝要。

あくまで私見(2)

◎空港や新幹線と大阪のど真ん中
が直結することは大阪の強み

◎難波の素敵な魅力は、海外の人の
出国前に受け取れるように発信

<テーマ1ゲスト委員:井原正博氏提供資料より>

・エンターテインメントを担う若者を支えるまち、交流できるまち＝街の磁力を難波に一層備えていく。

こうなると東心斎橋、アメリカ村周辺は「若者」の「聖地」となっていく。
若者の必須アイテムは、「ファッション」「音楽」。
そして、「社交場としてのディスコ」＝出会いの場がさらに街に磁力を生んでいく。



<テーマ1ゲスト委員:今井徹氏提供資料より>

・難波のハレの舞台、大阪人に愛される街の再生が不可欠。

- ・道頓堀は晴の街だった。今は・・・。
- ・ライブエンターテイメントの街(道頓堀に来ないと体験できない。)
- ・まずは街の美化、防犯
- ・本来の大阪の高尚な文化の発信 地元の人々による再認識
- ・アフターコロナのインバウンド対策 元通りでいいんですか？
- ・コロナ禍だから出来るリセット
- ・日本人(大阪人)とインバウンド共生

<テーマ3ゲスト委員:吉谷鉄三氏提供資料より>

・水都大阪のフィールドとして道頓堀の魅力を難波の魅力の強力なコンテンツとして磨き上げる。

難波エリアに期待すること



-
- ① 道頓堀川（リバーウォーク）を「**表の顔（背を向けない）**」に
➔人の流れをつくり、まちとの協調を図る
 - ② 人を惹きつけ続ける**多様性の更なる掛け合わせ**
➔難波の目指す姿（〇〇に喜んでもらう）に向けて一致団結
 - ③ 難波の魅力づくりから**オール大阪の魅力共創**へ
➔難波の独自性発揮×他エリアとの相乗・相互送客
- (番外編)**
- 環境美化改善には、ナッジ活用による行動変容が参考に。
(例：行動観察や仕掛学)

<テーマ3ゲスト委員:山崎聖高氏提供資料より>

・ナイトカルチャーを支える光の空間づくりは難波のエンターテイメントショーには不可欠。

最後に

光のまちづくり推進委員会



15. Osaka, Japan

The ultimate Japanese feast awaits.

If Kyoto represents Japan's spirit, and Tokyo its heart, Osaka is the country's insatiable appetite. The city's culinary legacy is alive and at work in the neighborhoods of Tsuruhashi and Fukushima, and in the 91 Michelin-starred restaurants spread throughout the city — like Ajikiteho, specializing in traditional Japanese cooking, and Taian, with a char-grilled focus. On April 28, it will all come together at the International Festival Utage ("feast"), a 10-day food festival, celebrating flavors from Japan's 47 prefectures. — KENAN CHRISTIANSEN

難波まちづくり勉強会資料より
NYタイムズ「今年行くべき世界の場所2017」

「光というのは社会にも人間にも明るい気持ちをくれる」

世間の「大阪」のイメージは「道頓堀」

難波はエンターテイメントのまち
中之島と違った夜間に滞在したくなるような光景観づくりを期待

難波でも、各エリアに合った特色のある光景観を作り上げ
難波から大阪・関西を元気に！

<テーマ2ゲスト委員:島原万丈氏提供資料より>

・「このまち、なんかいいよね。」は、五感を通して体感できる難波のまちにこそ備わる。

動詞で都市を評価：関係性指標

1. 共同体に帰属している

- ✓ お寺や神社にお参りをした
- ✓ 地域のボランティアやチャリティに参加した
- ✓ 馴染みの飲み屋で店主や常連客と盛り上がった
- ✓ 買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ

2. 匿名性がある

- ✓ カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ
- ✓ 平日の昼間から外で酒を飲んだ
- ✓ 不倫のデートをした
- ✓ 夜の盛り場でハメを外して遊んだ

3. ロマンسがある

- ✓ デートをした
- ✓ ナンパした・された
- ✓ 路上でキスした
- ✓ 素敵な異性に見とれた

4. 機会がある

- ✓ 刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した
- ✓ ためになるイベントやセミナー・市民講座に参加した
- ✓ コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した
- ✓ 友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した

動詞で都市を評価：身体性指標

1. 食文化が豊か

- ✓ 庶民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ
- ✓ 地元でとれる食材を使った料理を食べた
- ✓ 地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ
- ✓ ミシュランや食べログの評価の高いレストランで食事した

2. 街を感じる

- ✓ 街の風景をゆっくり眺めた
- ✓ 公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た
- ✓ 活気ある街の喧騒を心地よく感じた
- ✓ 商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた

3. 自然を感じる

- ✓ 木陰で心地よい風を感じた
- ✓ 公園や水辺で緑や水に直接ふれた
- ✓ 美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た
- ✓ 空気が美味しく深呼吸した

4. 歩ける

- ✓ 通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた
- ✓ 外で思い切り身体を動かして汗をかいた
- ✓ 家族と手を繋いで歩いた
- ✓ 遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた

<テーマ4ゲスト委員:松本利典氏提供資料より>

・都市開発を行う時こそ、低層部にはまちと人との関係性を持てる機能を実装することが不可欠。

NU茶屋町の開発

■ 梅田で希少な遊歩空間

《まちづくりのコンセプト》

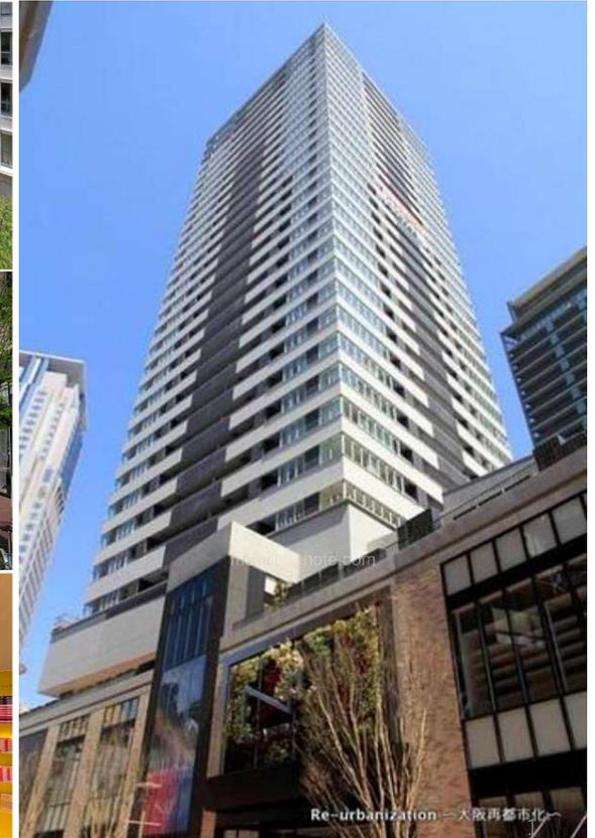
- ① 遊歩空間づくり
 - ・梅田で希少な、歩いて楽しいまち
- ② 連鎖するまちづくり
 - ・梅田で希少な、面的に広がる可能性のまち

《施設づくりのコンセプト》

- ③ 立体路面の施設づくり
 - ・建物も、遊歩空間コンセプトで設計
- ④ 都心居住ライフスタイル提案
 - ・茶屋町は、新しいビルのまちでなく人が活動してきたまち
 - ・低層部は遊歩空間コンセプトに則り路面性・賑わいの空間を演出
 - ・高層部は人が住み、茶屋町を愛する人を増やす

■ 「遊歩空間」 コリドールの整備

大阪梅田駅「茶屋町口」からNU茶屋町プラス（東地区）に至る幅員6mの施設内通路を整備



<テーマ5ゲスト委員:牧紀男氏紹介の文献より>

・外資系に選ばれるアセット機能には、ハイクオリティのBCPが必要不可欠。

Required spec with the Main office of FI in Japan

A few years before the Great East Japan Earthquake, Barclays Securities Japan and Barclays Bank Tokyo branch (Barclays) located their main office in the Roppongi Hills building complex. Roppongi Hills was considered the most resilient building in Tokyo as it has a co-generator power plant at the lower ground level. As Barclays' main office has many RTO 0-2 hours business, this resilience was a key point in selecting Roppongi Hills. Barclays prefers the option of staying at the main office, rather than move to a backup office, though most of their critical operation can be supported from the other offices abroad by dual operation.

Yasutake Sayanagi , et.al., Study with RTO and Recovery Location Strategy in the Financial Industry, TIEMS 2013 global conference in Velaux, France 2013

【要約】

災害時の即座の復旧が生命線の外資系金融機関にとって、コージェネレーション発電(熱電併給)施設を備えた六本木ヒルズのように、強固なレジリエンス機能を有することが拠点選びの決め手になる。

<テーマ3ゲスト委員:小松靖朋氏提供資料より>

・歩いて楽しい大阪ミナミの難波エリアをウォーカブル施策でさらなる回遊性を向上させる。

御堂筋チャレンジ2021

エリアの回遊創出とスマート化への検証～データによる検証

社会実験とあわせて「人流データ等を取得」し、今後の整備や回遊促進に活かす

経路等の空間特性分析

(スペース・シンタクス・ジャパン)

御堂筋やなんば駅前広場を基点に、回遊創出の仕掛けを議論する材料となる空間特性を分析

⇒ウォーカブルミナミに向けての回遊促進策・データ活用方策へ

ウォーカブル指標データ (空間・街路構造+経路等)



回遊強化策の議論へ

- ・御堂筋・なんば駅前広場とミナミ界隈を結ぶための手立て
- ・東西の通りの強化、滞在空間化など

商店街等の取り組み
(エリアのプロモーションほか)



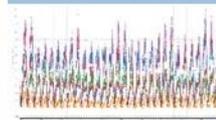
大阪市大・府大等による
回遊性創出研究

人流データの取得

(unerry)

コロナ禍の影響が続くことも念頭に、コロナ前のインバウンド来街者、コロナ禍での日常的な来街者の通行・回遊データを取得⇒社会実験や将来的な空間再編等での仕掛けが必要かを議論する材料に

既取得の通行量実測データ (量) 等の課題



- ・断面交通量は把握できているが、来街者の属性・趣向・経路は把握できない
- ・商店街等で独自に取得しているところもあるが、共有などはできていない

携帯GPSデータの把握 (属性)



- ・来街者のターゲット分析
- ・滞留場所や移動状況の把握

回遊性創出研究会で共有⇒今後のエリア回遊策検証へ反映

<テーマ2ゲスト委員:金谷元気氏提供資料より>

・大阪都心の国際競争力強化にとって、難波エリアの都市格向上は必要不可欠。

なんばにいる最大のメリットは、
関西空港に近いこと。

これからも
なんばから世界一を目指す。

難波に移転した理由

- ・好きな街であること
- ・東京や梅田はアウェイ感
(akippaはカウンターカルチャー集団)
- ・都会と下町感の融合で大衆感覚も持てる

最大の理由は後ほど・・・

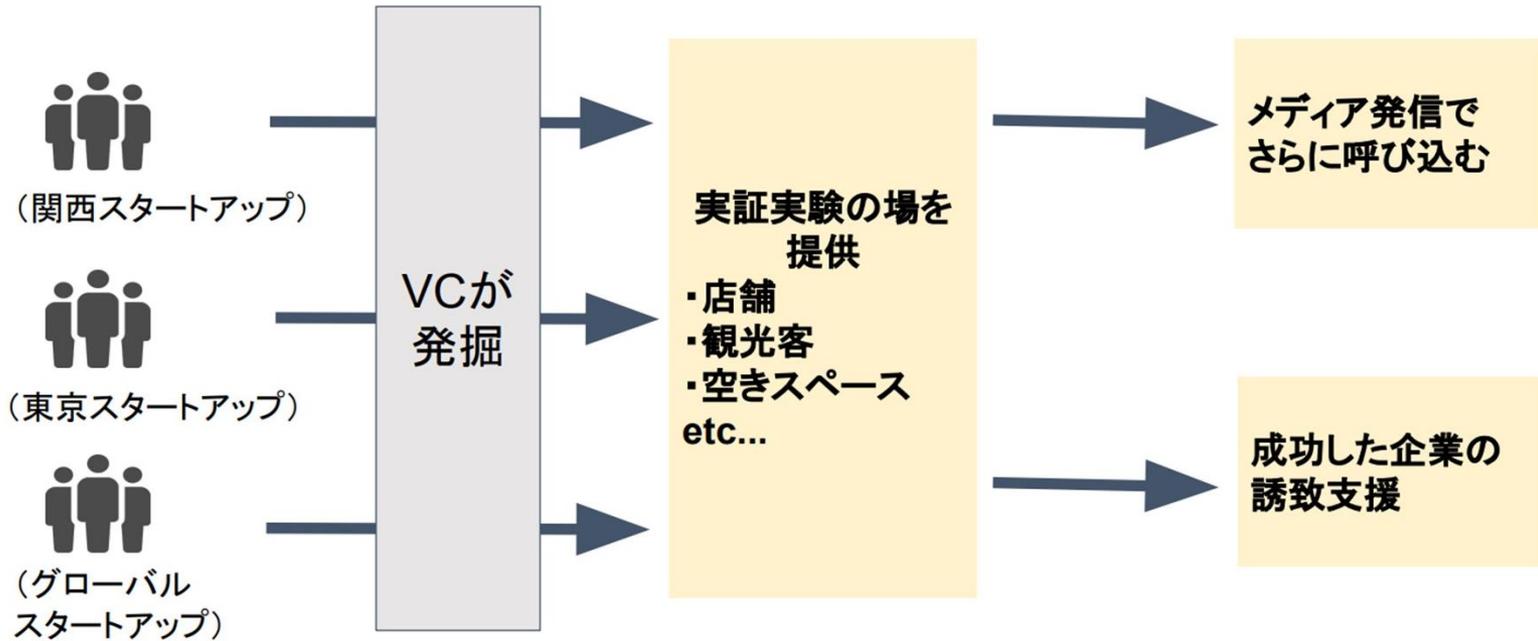
akippa Inc. Copyright © 2016

<テーマ2ゲスト委員:権基哲氏提供資料より>

・ベンチャー・スタートアップは実証実験を繰り返すスピード感が勝負。

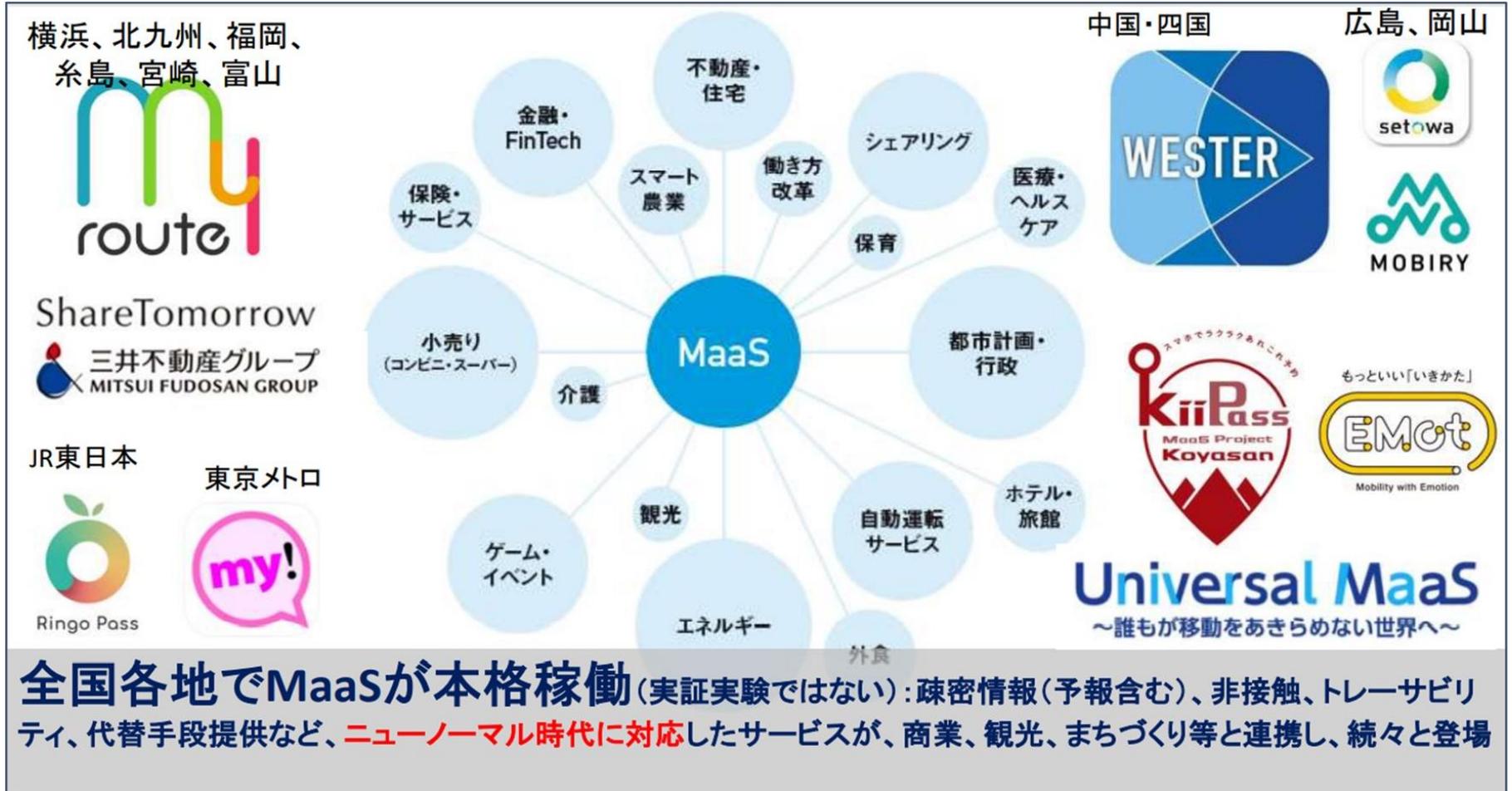
実証実験の街「なんば」

ビジネスでもオモロイ街「なんば」を作る



<テーマ4ゲスト委員:牧村和彦氏提供資料より>

・MaaS技術を難波のまちづくりに実装することは、「人とモノ」・「人とコト」・「人と人」・「人とまち」・「人と社会」の新しい関係性を構築する事につながる。



全国各地でMaaSが本格稼働(実証実験ではない): 疎密情報(予報含む)、非接触、トレーサビリティ、代替手段提供など、**ニューノーマル時代に対応**したサービスが、商業、観光、まちづくり等と連携し、続々と登場

<テーマ5ゲスト委員:梅田りさ氏提供資料より>

・次の難波を担う若者世代とまちの人とのつながりを共に築き上げられる取り組みが求められている。

【直近の取組】 コロナで苦しむ飲食店を救いたい！ OSAKA AID（ええど）！



大阪AID(ええど)とは、今日、大変苦しい状況に陥っている大阪市内の飲食店や美容院・宿泊施設などを応援するために立ち上がった、緊急プロジェクトです。すでに476店舗の店舗が加盟しており、お母にお買い物ができる「AIDカード」を使って、皆さんで大阪を盛り上げる企画を展開しています。

これまで多くの飲食店を巻き込みながらチャリティイベント「サンタバル」などを実施。

しかしコロナで店の存続すら怪しくなった。そこで立ち上げた救済バルプロジェクトが

OSAKA AID（ええど）！」

これまで培ったノウハウを駆使し企画を立ち上げ。運営資金を募ったクラウドファンディングでは1200万円の調達に成功した。※コロナ禍の飲食部門ではトップの調達額。

「食倒れの町、大阪を守りたい。」

その思いが届き、大阪市内400店舗以上が参加。



<テーマ5ゲスト委員:門重学氏提供資料より>

・多様な世代、多様な主体とともに安全安心な難波の実現には災害発生時の帰宅困難者対策が不可欠。

まちなかメディア災害情報発信の課題 28

「行き場のない屋外滞留者」の支援が対策の本丸

